

もっとずっと 壱岐

Moving forward to the future with you.

壱岐市市制施行20周年記念誌



もっとずっと壱岐

Moving forward to the future with you.

壱岐市市制施行 20 周年記念誌

写真で見る

壱岐の「四季」

Iki's four seasons in photos

Spring



1	5		
2	3	6	8
4	7		

- 1 黄金色に輝く大麦
- 2 桜の木々と半城湾
- 3 見送りの紙テープ
- 4 カラフルな半城湾のチューリップ
- 5 青い海と白砂の大浜
- 6 ツール・ド・壱岐島 (壱岐サイクルフェスティバル)
- 7 壱岐の島 夜空の祭典
- 8 壱岐郷ノ浦祇園山笠

Summer



Autumn



Winter



1		6	
2	4	7	8
3	5	9	

- 1 神々の島 志岐ウルトラマラソン
- 2 勝本港まつり
- 3 海豚鼻灯台
- 4 古代米の刈り入れ祭
- 5 原の辻一支国王都復元公園の旧道沿いに咲くコスモス
- 6 波打つ清石浜
- 7 「志岐大大神楽」奉納
- 8 志岐市消防出初式
- 9 志岐の島新春マラソン大会

ごあいさつ
Greeting

希望にあふれる未来へ向かって

平成16年(2004年)3月1日、郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4つの町が合併し、「壱岐市」が誕生してから早や20年の歳月が経ちました。この記念の節目を市民皆様とともに迎えることができますことに、深い喜びを感じております。

市制施行以来、総合的かつ計画的にまちづくりのための各種施策を展開してまいりました。

地域に活力をもたらす情報・通信基盤づくりのため、市内全域への光ファイバー網の整備により、高速データ通信が可能となり、GIGAスクール構想による学習活動の充実が図られ、テレワーク、ワーケーションといった新しい働き方が実現しております。

医療分野では、医師の確保等、離島医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、平成27年、壱岐市民病院の長崎県病院企業団加入により壱岐地域の医療体制が確立され、安全安心の医療を提供できる市の中核病院として、市民皆様に愛され信頼される病院へと成長を続けております。

平成29年には、有人国境離島法の施行により、離島民の悲願であった航路航空路のJ R並運賃が実現するとともに、雇用機会の拡充、滞在型観光促進が図られ、若者が希望を持てる環境づくり、交流人口、関係人口拡大の取組を進めてまいりました。

この他にも、一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センターの開館、介護福祉専門学校の誘致等、市民皆様のご理解とご協力をいただきながら、壱岐市の未来に繋がる各種の事業及び施策に取り組んできた結果、着実に壱岐市政は発展しているところであります。

本誌では、合併から20年間の壱岐市のあゆみとして、主な出来事を振り返るとともに、SDGs未来都市として持続可能な社会の実現に向けた取組の紹介をはじめ、市民皆様の声やご活躍される姿を共有できるように作成いたしました。壱岐市の魅力あふれるまちの姿はもちろん、皆様ご自身の20年間の思い出を振り返るきっかけとしていただければ幸いです。

古代から大陸との交流の拠点として様々な「実り」を享受し、人が自然とともに生き、暮らしの中に歴史と文化が息づいているここ壱岐は、「実りの島」と称されています。先人から受け継いだこの素晴らしい環境を守り、新しい世代に「住み続けられる壱岐」を継承していくため、「誰一人取り残さない協働のまちづくり」を、市民皆様とともに築いてまいります。

結びに、これまで深いご理解とご協力を賜りました市民皆様及び関係各位に深甚なる敬意と感謝の意を表し、発刊に際してのご挨拶といたします。

令和6年3月1日

壱岐市長 白川博一

壱岐市市制施行20周年記念誌

もっとずっと壱岐

Contents

写真で見る壱岐の「四季」	2
壱岐市20年のあゆみ	8
壱岐市SDGs未来都市計画 壱岐活き対話型社会 ～壱岐・粋・な Society5.0～	20
ハタチになりました	24
楽しい暮らしを当たり前。(座談会)	26
いきいき! PEOPLE	30
市民の皆さんに聞きました	34
データで見る壱岐市	36
行政のあゆみ	38
議会のあゆみ	39

吉岐市 20年のあゆみ

平成16年3月に吉岐市が誕生して20年目の節目を迎えました。
これまでのできごとを振り返ります。



平成15年2月13日
合併協定調印式

2003
平成15年

- 2月13日 合併協定調印式

2004
平成16年

- 2月 旧4町の閉町式が開催される
- 3月1日 **吉岐市誕生**
- 3月8日 吉岐市議会第1回臨時会
- 3月29日 市営住宅今宮団地新築
- 4月18日 吉岐市長選挙
- 7月3日 第2回吉岐御柱祭
- 7月27日 吉岐市誕生記念式典開催



平成16年3月1日
旧4町が合併し「吉岐市」が誕生



平成16年3月8日
西部開発総合センターで行われた初議会

2005
平成17年

- 3月1日 吉岐市市歌「吉岐洋洋」制定
- 3月1日 市の「花木・花・木・鳥」決定
- 3月20日 福岡県西方沖地震発生
- 3月27日 吉岐市市歌「吉岐洋洋」発表会
- 5月1日 吉岐市民病院開院
- 5月1日 吉岐市消防団発足
- 7月17日 吉岐市議会の解散請求の賛否を問う住民投票執行、即日議会解散
- 8月7日 解散に伴う市議会議員一般選挙
- 10月15日 諏訪市・吉岐市姉妹都市提携調印式



平成17年10月15日
諏訪市・吉岐市姉妹都市提携調印式

2007
平成19年

- 4月1日 印通寺港ターミナルビルのリニューアルと印通寺～唐津航路就航
- 5月11日 石田スポーツセンター落成



平成19年5月11日
石田スポーツセンターが落成

映像で振り返る吉岐市の20年

吉岐市誕生からこれまでの20年のあゆみを映像でご覧いただけます。



2008
平成20年

- 3月25日 市営住宅寺頭団地(A棟)新築
- 3月25日 市営住宅白水団地(A棟)新築
- 4月13日 吉岐市長選挙
- 7月1日 吉岐市観光協会発足
- 7月1日 瀬戸地区漁業集落下水道供用開始



平成18年7月19日
芦辺港ターミナルビルリニューアル



平成25年4月1日
かたばる病院閉院

2013
平成25年

- 4月1日 かたばる病院閉院
- 4月1日 吉岐市観光連盟発足
- 7月21日 市議会議員一般選挙



平成24年11月1日
国民宿舎「吉岐島荘」リニューアルオープン



2010
平成22年

- 3月14日 吉岐市立一支国博物館開館・長崎県埋蔵文化財センター開館
- 3月14日 原の辻一支国王都復元公園開園
- 3月18日 市営住宅上町団地(B棟)新築
- 3月18日 市営住宅寺頭団地(B棟)新築
- 7月 吉岐市郷ノ浦町堆肥センター竣工
- 11月6日 第3回吉岐御柱祭



平成23年4月
中学校規模適正化による統廃合により、市内中学校が4校に

2009
平成21年

- 2月27日 市営住宅上町団地(A棟)新築
- 2月27日 市営住宅白水団地(B棟)新築
- 7月1日 吉岐栽培センター完成
- 8月2日 市議会議員一般選挙



平成26年3月1日
吉岐市市制施行10周年記念式典開催

2014
平成26年

- 3月1日 吉岐市市制施行10周年記念式典開催

2012
平成24年

- 1月5日 吉岐市三島診療所開所
- 3月22日 市営住宅桜木団地新築
- 4月1日 新船「フェリーきずな」就航
- 4月1日 吉岐市クリーンセンター稼働
- 4月1日 吉岐市汚泥再生処理センター稼働
- 4月15日 吉岐市長選挙
- 11月1日 国民宿舎「吉岐島荘」リニューアルオープン

2011
平成23年

- 2月 風土記の丘古墳館オープン
- 3月11日 東北地方太平洋沖地震「東日本大震災」発生
- 3月31日 市内光ファイバー網整備完了
- 3月 中学校規模適正化により市内10中学校閉校
- 4月1日 吉岐市ケーブルテレビ開局
- 4月28日 吉岐市福岡事務所開所
- 4月 中学校4校開校
- 7月30日 吉岐市学校給食センター竣工
- 9月 全国初、認定漁業者制度・漁業後継者対策制度スタート



平成22年3月14日
吉岐市立一支国博物館開館・長崎県埋蔵文化財センター開館



第32回長崎県消防ポンプ操法大会でポンプ車の部にて優勝し、10連覇を達成した芦辺地区第1分団が、見事全国2連覇の快挙を成し遂げました。また、同県大会小型ポンプの部では、郷ノ浦地区第7分団2部が準優勝を飾りました。(11月)

全国消防操法大会に芦辺地区第1分団が長崎県代表として出場。長崎市として全国2連覇達成！



これまで長崎島の地域医療を担う中核病院として重要な役割を果たしてきた長崎市民病院が、4月1日に長崎県病院企業団「長崎県老岐病院」として開院しました。(4月)

長崎市民病院が長崎県病院企業団に加入。「長崎県老岐病院」として新たに開院！

2014

平成26年

その他の主な出来事

- 長崎市市制施行10周年記念式典開催(3月)
- 西日本電信電話株式会社福岡支店と「特設公衆電話の設置・利用に関する協定」締結(10月)

世の中の動き

- 韓国旅客船「セウォル号」沈没。死者・行方不明者304人
- 解釈改憲で集団的自衛権容認
- 御嶽山が噴火。57人死亡6名不明
- 米、キューバが国交正常化へ

その他の主な出来事

- B'zライブ開催(3月)
- 三島小学校の長島分校、原島分校を大島本校に統合(4月)
- 庁舎建設に係る住民投票により新庁舎の建設は行わず、現4庁舎を耐震補強(4月)
- 長崎市内郵便局と「災害時における相互協力に関する協定」締結(6月)
- 長崎市特別養護老人ホームとデイサービスセンターを閉所、デイサービスセンターを社会福祉法人「志心会」に経営移譲(10月)
- MBA(経営学修士)資格取得を目指す外国人留学生のインターンシップ派遣先として本市が選定(12月)

世の中の動き

- 安全保障関連法が成立
- 環太平洋パートナーシップ(TPP)交渉が大筋合意
- 沖縄・普天間飛行場の辺野古移設 国が着工

2015

平成27年



ゲストに小柳ルミ子さん、狩人さんを迎え、長崎市市制施行10周年を記念した「NHKのど自慢」開催(3月)



長崎市消防本部・長岐消防署の新庁舎竣工(3月)



「国境の島 長岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」のタイトルで全国18か所の内の1つとして日本遺産に認定(4月)



国境離島新法の早期制定に向けた「国境離島新法制定長崎市決起大会」開催(5月)



長崎市原島診療所開所(6月)



NCC長崎文化放送開局25年特番「つるの剛士マグロ釣るの!?!」公開収録(6月)



第69回長崎がんばらば国体で長崎市ではソフトボール成年女子開催(10月)



歴史・教育・経済パートナーシップ宣言を締結している兵庫県朝来市と「友好都市提携」締結(6月)



富士ゼロックス株式会社(当時)と「地方創生に向けた連携協定」締結(10月)



第1回壱岐ウルトラマラソンにおいて、島内外から100kmの部には344名、50kmの部には211名が出走し、自らの限界に挑戦しました。(10月)



ふるさとテレワーク推進事業及び地方創生拠点整備交付金事業を活用して、原の辻ガイダンスにてコワーキングスペースや個室などが完備された、壱岐テレワークセンターを開設しました。(9月)



「壱岐ウルトラマラソン」を初開催！

壱岐テレワークセンター「Freewill Studio」をオープン！

2016

平成28年

その他の主な出来事

- 壱岐市三島診療所閉所（平成27年4月1日から光武内科循環器科病院が巡回診療を開始）（3月）
- 市長選挙で3期目となる白川博一氏が当選（4月）
- 壱岐市社会福祉協議会と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」締結（8月）
- 大塚製薬株式会社と「安全安心のまちづくりに関する連携協定」締結（10月）

世の中の動き

- 有人国境離島法が制定
- 熊本地震が発生
- オバマ大統領が広島訪問「核なき世界、追求する勇気を」
- リオオリンピック・パラリンピック開催
- アニメ映画「君の名は。」が大ヒット
- ポケモンGO、国内外で爆発的人气

その他の主な出来事

- TUBEライブ開催（7月）
- 壱岐地区生コンクリート協同組合と「災害時における消火用水供給応援に関する協定」締結（7月）
- 「壱岐市ふるさと商社」設立（8月）
- 「壱岐しごとサポートセンター(Iki-Biz)」設立（8月）
- 本市に存在する朝鮮通信使関連の資料がユネスコ世界の記憶（記憶遺産）に登録（10月）

世の中の動き

- トランプ米政権発足
- 将棋の藤井四段が29連勝で歴代最多連勝記録を塗り替える
- 九州北部豪雨で死者・行方不明者41人
- 国連「核兵器禁止条約」を採択
- 陸上男子100mで桐生祥秀選手が9秒98を記録

2017

平成29年



筒城浜園地ジョギングコースが完成（3月）



長野県諏訪市との友好の絆を深めた「第4回壱岐市御柱祭」開催（7月）



ねんりんピック長崎2016で壱岐市ではウォークラリー交流大会開催（10月）



壱岐の島ホール落成20周年を記念した「ふるさと自慢うた自慢」公開収録（11月）



航路航空路運賃の低廉化の実現と雇用拡充事業の採択に繋がる「有人国境離島法」施行（4月）



壱岐初の専門学校となる「こころ医療福祉専門学校壱岐校」開校（4月）



芦辺小学校新校舎が完成（5月）



50年に1度とされた記録的集中豪雨で2度発生（6月、7月）



自治体部門で唯一の表彰となる「結婚・婚活応援アワード2017自治体部門」表彰（12月）





国際社会が抱える問題を2030年度までに達成するため、国連が採択した持続可能な開発目標を示した「SDGs未来都市」に彦岐市が全国29都市の1つとして選定され、その中でも先導的な取組として自治体SDGsモデル事業の10都市の1つに選定されました。(6月)

選定 SDGs 未来都市の



「彦岐イルカパーク&リゾート」をリニューアルオープン！

平成7年に開園した彦岐イルカパークが、「彦岐イルカパーク&リゾート」として施設や体験プログラムを一新し、リニューアルオープンしました。(4月)

平成30年 2018

その他の主な出来事

- 彦岐空港にて国内初となる大型遠隔操縦航空機実証試験実施(5月)
- 兵庫県朝来市と「災害時における相互応援に関する協定」締結(9月)
- 「いきっこ留学制度」開始(9月)
- HYライブ開催(11月)
- 彦岐市自治基本条例施行(12月)

世の中の動き

- 平昌五輪開幕、男子フィギュアスケート羽生結弦選手が連覇
- 史上初の米朝首脳会談
- サッカーW杯ロシア大会。日本は16強
- 西日本豪雨、死者220人超
- 台風21号襲来。関西国際空港が冠水し孤立
- 女子テニスの大坂なおみ選手が四大大会で日本人初となる全米オープン優勝
- 大谷翔平選手、メジャー新人王に

その他の主な出来事

- 芦辺浦地区任意団体たちまちと「芦辺浦地区における移住促進ならびに空き家の活用推進に関する連携協定」締結(2月)
- 彦岐市まちづくり協議会設置条例施行(4月)
- 初の離島開催となる九州地方知事会議、九州地域戦略会議(6月)
- 彦岐市歯科医師会と「災害時の歯科医療救護活動に関する協定」締結(6月)
- 彦岐医師会、エーザイ株式会社と「認知症とともに生きる地域づくりに関する連携協定」締結(7月)
- 市議会定例会にて「気候非常事態宣言」を全会一致で可決(9月)
- 芦辺中学校が新校舎へ移転(11月)
- 福岡大学、彦岐医師会と「保健・医療に関する連携協定」締結(11月)
- ニュースアプリ「スマートニュース」彦岐市チャンネル開設(11月)
- 第3次彦岐市総合計画「誰一人取り残さない。協働のまちづくり」策定(12月)

世の中の動き

- 天皇陛下が即位。「令和」に改元
- 京都アニメーション放火。36人死亡
- ゴルフ・渋野日向子選手が全英女子優勝

令和元年 2019



郷ノ浦港ターミナルに「彦岐観光サービス拠点施設」開所(4月)



高円宮妃久子殿下ご臨席のもと「第59回外国人による日本語弁論大会」開催(5月)



ゲストに大月みやこさん、氷川きよしさんを迎え、彦岐市市制施行15周年を記念した「NHKのど自慢」開催(7月)



印通寺～唐津航路に「ダイヤモンドいき」就航(4月)
(更新に伴い、昭和62年から30年以上にわたり運航していた「フェリーあずさ」が廃船)



彦岐市立幼保連携型石田こども園開園(4月)



長島・原島地区放射線防護対策施設竣工(7月)



第34回長崎県消防ポンプ操法大会にて小型ポンプの部で郷ノ浦地区第7分団2部が優勝、ポンプ車の部で芦辺地区第1分団が準優勝(8月)



芦辺風力発電所2000kw竣工(5月)



防災・教育・経済友好交流宣言を締結している福島県楢葉町と「友好都市提携」締結(8月)



彦岐市で第1号となる「三島まちづくり協議会」設立(10月)



「吉岐海域における母藻供給ネットワーク構築に向けた連携協定」締結



市内5漁協と長崎県及び吉岐市が相互に連携・協力し、効果的に磯焼け対策関連事業を推進するため、「吉岐海域における母藻供給ネットワーク構築に向けた連携協定」を締結しました。(8月)

吉岐市地域公共交通再編実施計画において、重点地区と定めている初山地区で、国土交通大臣から自家用有償旅客運送の登録を受けて運行するコミュニティ交通として、オレンジバス号の運行がスタートしました。(11月)



初山地区まちづくり協議会 コミュニティバス 「オレンジバス号」が運行開始!

2020

令和2年

その他の主な出来事

- まちづくり協議会設立(瀬戸、箱崎、霞翠、筒城、那賀、八幡、渡良、志原、初山)
- 東京大学先端科学技術研究センターと「持続可能な地域づくりに関する連携協定」締結(2月)
- 吉岐市福岡事務所開所(3月)
- 吉岐市東京事務所開所(4月)
- 市長選挙で4期目となる白川博一氏が当選(4月)
- 吉岐市緊急経済対策事業実施(令和5年度まで)(5月)
- 熊本県小国町と「災害時における相互応援に関する協定」締結(9月)
- 九州電力送配電株式会社吉岐配電事業所と「吉岐市災害復旧に関する協定」締結(10月)

世の中の動き

- 英国がEUを離脱
- WHO、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを表明
- 新型コロナウイルス感染症拡大。緊急事態宣言発令
- アニメ映画「鬼滅の刃」公開。国内最速で興行収入100億円突破
- 日本の小惑星探査機「はやぶさ2」のカプセルがほぼノーマスで帰還

その他の主な出来事

- まちづくり協議会設立(勝本、沼津、鯨伏)
- 日本郵便株式会社と「包括的連携協定」締結(2月)
- 「吉岐市スマート農業推進協議会」設立(4月)
- 日本遺産のモデル地域として「重点支援地域」に選定(7月)
- 長崎県環境保全協会、長崎県環境整備事業協同組合と「災害時における災害廃棄物の処理等の協力に関する協定」締結(8月)
- 株式会社 Another works と「民間複業人材との協働に関する連携協定」締結(11月)

世の中の動き

- ゴルフの松山英樹選手がマスターズ優勝。日本初のメジャー制覇
- 東京五輪開催。日本は史上最多メダル58個獲得
- 東京パラリンピック女子マラソンにおいて本市で合宿をされた道下美里選手が金メダル獲得
- 大谷翔平選手、メジャー MVP に
- 新型コロナウイルスの変異株をWHOが「オミクロン株」と命名し警戒

2021

令和3年



慶應義塾大学SFC研究所、株式会社リクルートと「地域創生に関する研究開発の連携協力協定」締結(1月)



市営住宅新大久保団地が完成(3月)



吉岐葬斎場「ひなたの丘」竣工(3月)



原の辻ガイダンス前から一支国博物館までのルートで「東京2020オリンピック聖火リレー」を実施(5月)



本市の発展に必要な人材育成と地域創生を図り「吉岐なみらい研究所」開講(7月)



郷ノ浦港が「みなとオアシス吉岐」に登録(8月)



吉岐の島ホールに新型コロナウイルスワクチン集団接種会場を開設(6月)



「東京2020パラリンピック吉岐市採火式」にてマイギリ(火種を作る道具)を使って起こした火をランタンに点火(8月)



勝本中学校の野球部とソフトボール部が県中総体W優勝！

7月23日から26日まで開催された長崎県中学校総合体育大会において、勝本中学校の野球部とソフトボール部が見事優勝を果たしました。また、同校野球部は、続く九州中学校軟式野球競技大会で第3位、全国中学校軟式野球大会でベスト16の快挙を成し遂げました。(8月)



第14回全国離島交流中学生野球大会（離島甲子園）優勝！

鹿児島県奄美大島にて開催された第14回国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会に壱岐市選抜が出場し、10年ぶり3度目の優勝に輝きました。(8月)

2022

令和4年

その他の主な出来事

- 壱岐市立筒城保育所閉所、壱岐市芦辺町八幡児童館閉館 (3月)
- 長崎文化放送株式会社と「防災パートナーシップに関する協定」締結 (4月)
- 参議院議員通常選挙で山本啓介氏が壱岐出身者として80年ぶりとなる当選 (7月)
- 一般社団法人水産土木建設技術センターと「漁港等の施設の災害復旧支援に関する協定」締結 (7月)
- 壱岐市初の盲導犬利用開始 (10月)
- エンゲージメントパートナー制度の取組開始 (10月)

世の中の動き

- 北京冬季五輪で日本勢活躍、冬季大会最多のメダル18個獲得
- ロシアがウクライナに侵攻
- 知床で26人乗り観光船沈没
- 安倍元首相撃たれ死亡
- エリザベス英女王死去
- サッカーW杯、日本がグループリーグでドイツ、スペインに勝利し16強

その他の主な出来事

- まちづくり協議会設立 (田河、芦辺)
- 壱岐市社会福祉協議会と「災害ボランティアセンターに関する協定」締結 (4月)
- 壱岐ライオンズクラブと「災害ボランティアに関する協定」締結 (12月)

世の中の動き

- トルコ地震、5万人超死亡
- ワールド・ベースボール・クラシック (WBC)、日本14年ぶり3度目の優勝
- 新型コロナウイルス感染症「5類」移行
- 生成AIの急速な普及を受け「AI戦略会議」初会合。著作権侵害などの弊害に懸念も
- 広島でG7サミット開催
- 世界陸上やり投げで北口博花選手金メダル
- 記録的猛暑、夏の平均気温過去最高
- イスラエル・ハマス軍事衝突
- 将棋・藤井聡太棋士が史上初の八冠制覇
- 大谷翔平選手、メジャー本塁打王&MVP。ロサンゼルス・ドジャースへ移籍

2023

令和5年



郷ノ浦中学校野球部が九州中学校選抜軟式野球大会初優勝、前年11月から4度にわたる県大会優勝 (3月)



新幹線博多駅構内に壱岐島の魅力を発信する「イキノエキ」オープン (4月)



株式会社NHSの保険業務を取り扱う壱岐コールセンターが開設 (2月)



箱崎まちづくり協議会コミュニティバス「はこざきふれあいGo」運行開始 (6月)



7年に1度となる「第5回壱岐市御柱祭」開催 (7月)



太陽光発電と水素の製造・貯蔵・発電を組み合わせ「RE水素システム」始動開始 (10月)



ゲストに石川さゆりさん、大江裕さんを迎え、壱岐市市制施行20周年を記念した「NHKのど自慢」開催 (7月)



第15回エコマテリアル国際会議開催 (11月)

この図は、Society 5.0の概念を説明しています。中央には「Society 5.0」とあり、その周囲には「産業・社会・環境・経済」の4つの柱が示されています。また、「対話型社会」や「スマート農業・自動輸送」などのキーワードも含まれています。背景にはSDGsのアイコンが並び、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが示されています。

岐阜市 SDGs 未来都市計画 岐阜活き対話型社会 ～岐阜・粋・な Society5.0～

人口ビジョンでは、2030年までに5,000人強の人口が減少（旧4町のうち1町の人口程度）し、現状の高齢化率は日本平均の25年先以上の水準となっています。そのような人口減少・超高齢化の現状に健全な危機感を抱き、手遅れになる前に未来に岐阜島を継承するための取組を始め、平成30年、第1回SDGs未来都市（年30都市）及び自治体SDGsモデル事業（年10事業）に挑戦し、選定されました。

自治体SDGsモデル事業「Industry4.0を駆使した新たな6次産業化モデル構築事業」をはじめ、第3次岐阜市総合計画には「誰一人取り残さない。」というSDGsの理念を取り入れ、豊かな自然資本に支えられ第1次産業を起点に循環する経済の実現、離島という条件不利性に影響されない充実した学びの機会の提供、誰もが自分らしく安全で安心して暮らし続けることができる社会の実現を目指し、経済・社会・環境の3側面に統合的に様々な政策を展開しています。

これまでの取組

「第1次産業」+「企業力」で
スマート農業・自動輸送・
規格外品利活用などに取り組む

持続可能な第1次産業の実現に向けて、まずは農業（アスパラガス）から取組を開始しました。既存の農業政策だけではなく、「企業力」を積極的に取り入れることで、持続可能な農業を目指します。

新しい栽培技術やテクノロジーを取り入れることで、新規就農者の早期自立や、省力化により高齢でも続けやすく、集落営農でも雇用しやすくすることで、兼業など多様な農業との関わり方により、担い手を確保していきます。

また、企業等との新しいネットワークや信頼関係構築により、販路開拓や新商品開発などの取組が加速していくことにも期待しています。



**国内自治体初
「気候非常事態宣言」
再エネ100%を目指す
再エネ水素システム
環境大臣賞グランプリ受賞**

気候変動に伴う自然災害の増加や第1次産業への影響などが深刻になる中で、具体的な対策に取り組んでいくため、国内自治体初となる「気候非常事態宣言」を行いました。4R（Reduce, Reuse, Recycle, Refuse）の推進や2050年までに再生可能エネルギー100%の実現を目指しています。

東京大学先端科学技術研究センターをはじめ大学企業等と連携し、実証実験を行っている「RE（再生可能エネルギー）水素システム事業」は不安定な再生可能エネルギーをマネジメントする水素技術の研究開発ですが、水素発電の実証だけでなく副産物の酸素や排熱までを使用する取組であり、この取組が「脱炭素チャレンジカップ2024」において、最高位の環境大臣賞グランプリを受賞しました。これからも脱炭素社会の実現に向けて、様々な挑戦を進めていきます。



**海洋教育
住み続けたい
まちづくり運動**

小学校では、身近な「海」を通してSDGsに触れる海洋教育プログラムを実施しています。「食」「水産業」「交易」「エネルギー」「環境」「文化（歴史）」の6つのテーマから、各小学校でテーマを設定し、授業を実施しています。

中学校では、10年後、自分たちが住み続けたいまちの状態を想像し、その未来像に向けて自分達にできる具体的な行動を、ワークショップや夏休みを利用した地域へのインタビュー活動を経て、考えています。



**市民対話会
イノベーション
教育プログラム**

平成27年度から「対話型まちづくり」を推進してきました。アイデアを基に、岐阜テレワークセンターを整備し、また、岐阜島四十二社巡りなどの観光コンテンツが生まれ、海岸漂着ごみの回収ボランティア活動が増加したり、大小様々な地域活性化事例が生まれています。

近年は、高校におけるイノベーション教育プログラムとも連携し、さらに魅力的なアイデアが生まれています。岐阜の未来についての「対話」を通じて、同じ思いを持った人と出会い、仲間を作り、行動しています。一人ひとりの主体的な行動が、持続可能な岐阜島を創っています。



**岐阜なみらい創り
プロジェクト発表会
（市民対話会）**

毎年2月下旬に、小・中学校のSDGs教育プログラムの活動成果、高校のイノベーション教育・起業体験プログラムの成果、市民対話会や岐阜なみらい研究所の大人の挑戦など、こどもから大人まで、持続可能な岐阜の未来に向けた様々なアイデア発表会を開催し、地域全体でのSDGs推進を図っています。



壱岐高等学校



ヒューマンハート部 探究チーム

壱岐の活性化を目指し、イノベーションやアイデア創出に取り組む部活動です。平成27年度から市民対話会には多くの高校生が参加し、壱岐の課題を解決するアイデア創出に取り組んでいました。この活動を学校内でも取り組めるよう、令和2年度に壱岐高校内で主にボランティア活動に取り組んでいたヒューマンハート部内に探究チームが発足しました。

主に1、2年生が参加し、1学期はアイデアの種となる地域の方々へのインタビューを実施、サマープログラムでアイデア創出を行い、2学期以降はアイデアのブラッシュアップと共に、アイデアを実行するチャレンジまで行っています。また、年度末の発表会で活動の成果を発表し、校外でのコンテストにも参加しています。高校生のアイデアを元に、地域の事業者と連携し、持続可能な活動にする動きも見られています。



イノベーション・サマー・プログラム ～壱岐の未来を考える夏合宿～

高校生が壱岐の未来に変化を生み出すアイデア創出に取り組む短期集中サマープログラムです。壱岐出身大学生がメンターとして高校生に伴走することが特長で、ヒューマンハート部発足前から行われており、過去にはフードロス削減をテーマにした取組「食べてほしーる」が消費者庁長官賞を受賞するなどの活動実績も残っています。令和4年度より、高校の新学習指導要領の中で新設された「総合的な探究の時間」の授業とも連携し、サマープログラムの中でアイデア創出に取り組んでいます。

サマープログラムをきっかけにアイデアをブラッシュアップした活動チームが長崎県高校教育課主催のコンテストでも最優秀賞に選ばれ、全国大会に相当するコンテストでも受賞しています。



壱岐商業高等学校



起業体験プロジェクト

壱岐商業高校3年生「課題研究」授業内に『起業体験プロジェクト』として令和4年度に新設され、勝本浦で3回開催したマルシェは、九州地区で複数の高校にプログラム提供を行っている福岡大学商学部飛田ゼミの協力を得ています。

令和4年度は、8月に夏マルシェを実施しました。勝本町の空き店舗を利用して、週末限定のカフェ、洋服店をオープンし、400名近くの来場がありました。12月には「壱岐商出張文化祭」と題し、文化部による演目、高校生による写真展、島内飲食店の出店、街歩きツアーなど、幅広い年齢層の人たちで街が賑わうイベントを企画しました。また、令和5年度は、8月のコンセプトを「夏祭り」とし、島内飲食店の出店や、校内の課題研究で連携開発した商品の販売などを積極的に行いました。今後も取組を継続、発展させていく予定です。



株式会社IKISHO設立

『起業体験プロジェクト』の活動を通じて、高校生自身がより主体的に会社経営、事業活動に取り組んでいけるよう、令和5年度に「株式会社IKISHO」を設立しました。

壱岐市も、地域の事業者との連携等の場面でのコーディネートを行う役割を担っており、高校生による株式会社設立は長崎県内では初、全国では7番目、離島の商業高校では全国初の取組です。

令和6年は、様々な関係機関と連携し、持続可能な会社運営を目指し、3年生全科での取組とする予定です。また、3年生からの本格的な活動に向けた準備期間として、1、2年生も地域への理解を深める探究活動に取り組む予定です。



平山旅館



平山旅館では昔ながらの方法で、資源の再利用・循環を創業当初より実施しています。調理の過程や食べ残しなどから出た生ゴミは、一切ゴミとして捨てることはありません。ウニや貝の殻は畑に撒いて土壌のミネラル補給に。野菜クズや残飯などは、飼育している馬や犬、鶏たちが食べてくれます。その鶏たちが産む卵がまた旅館の食材となり、馬糞や鶏糞は熟成させ、最高の肥料となり旅館が管理する無農薬農園へと、そのようにしてフードロスゼロを実現しています。

お客様に提供する料理の大半は、壱岐島で採れた魚や野菜を地産地消し、その多くを自給しているため、フードマイレージ（=食材の輸送距離）も限りなくゼロに近く脱炭素にも貢献しています。

さらに、旅館のある湯本温泉に湧く源泉を熱交換に利用し、60度以上ある源泉の熱で水道水を温め、シャワーや皿洗いなどに利用しています。

経験と知恵で、限りある地球上の資源を有効利用しながら旅館業を営んでいます。



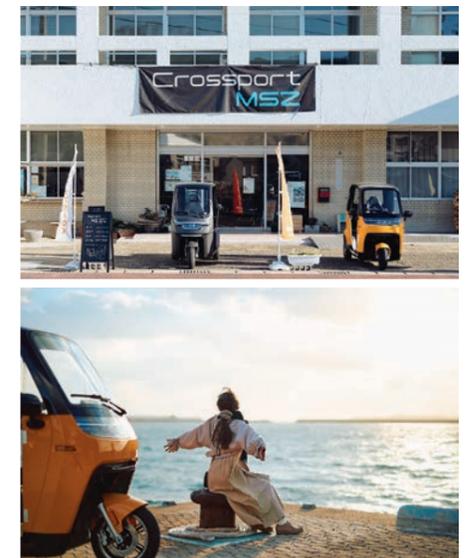
クロスポート武生水



令和4年春にオープンしたコワーキングスペース「クロスポート武生水（むしょうず）」は、離島特有の2次交通問題の解消と地域エネルギーの地産地消を目指しています。この施設では、現在観光客向けに小型の電動トクトックなどの電動車両をレンタルしており、製品の改良と充電インフラの整備が進むことで、離島における便利な短距離移動手段としての地位を確立することが期待されています。

加えて、ガソリンスタンドに依存しないEVカーシェアリングサービスも提供しています。このサービスはスマートフォンを通じての予約、決済、貸出、返却が可能で、24時間無人で利用できるため、利用者の多様なニーズに柔軟に対応しています。

将来的には、これらの電動モビリティを壱岐島のエネルギーマネジメントシステムに組み込むことで、島全体のエネルギー効率の向上を目指します。この取組により、再生可能エネルギーの活用が促進され、環境に優しい島づくりが可能になると考えられます。地域社会と環境に配慮した持続可能な交通手段の提供は、離島生活の質の向上と地域経済の活性化に寄与することでしょう。



壱岐市磯焼け対策協議会



気候変動に伴う海水温の上昇や磯焼けによる水産業への影響が顕著になる中、令和2年に市内の5漁協、市、県が連携し壱岐市磯焼け対策協議会を立ち上げました。海藻の幼体を付着させた藻場増殖ブロックの設置、漁協の垣根を越えて母藻を島内で融通するための母藻供給ネットワークの構築、藻場の回復の障害になる植食性魚類のイスズミ等について、崩れた生態系バランスを戻すことを目的にイスズミハンターとして漁業者へ報酬を出して駆除する取組などを行なっています。

この取組で、大規模なホンダワラ類藻場の回復を実現。ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（JBE）から、ブルーカーボンの定量的評価により、Jブルークレジット 974.6t-CO₂の認証を受けました。

これによりカーボンオフセット[※]の取組に寄与し、資金循環が促進されることで、活動の持続性が担保され、水産資源の回復と持続可能な水産業の実現を目指していきます。



※カーボンオフセットとは、温室効果ガスの削減努力をした上でも、やむを得ず排出してしまう温室効果ガス（カーボン）を埋め合わせる（オフセット）ために、他の場所で排出や吸収の取組をしたり、そのような事業に出資したりすること。

We turned 20 years old with Iki City.

ハタチになりました

市制施行 20 周年となる 2024 年、
吉崎市とともに 20 歳の門出を迎えた皆さんにこれからの抱負をお聞きしました。



おざわ りな
小澤 里奈さん

将来の夢や目標は？

介護福祉士になることです。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

今年から仕事も本格的に入るようになるので、責任を持って頑張りたいです。そして、20 年間一番近くで見守ってくれた両親にはとても感謝しています。



おおくほ こうき
大久保 洸貴さん

将来の夢や目標は？

引越し業で働いていまして、効率の良い作業をし、お客様を満足させたい。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

様々なことに挑戦したい。



よしだ たかのぶ
吉田 貴信さん

将来の夢や目標は？

楽しい人生を全うすることです。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

一つ一つの行動に責任を持って社会人として頑張っていきたいです。



しらいし ゆう
白石 悠さん

将来の夢や目標は？

笑顔を忘れずに日々の業務に励む。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

社会人として自覚を持ち、感謝の気持ちを忘れずに何事にも挑戦し続けられるよう心がけていきたいです。



ながた たつき
永田 樹さん

将来の夢や目標は？

自分の1番の目標だったプロサッカー選手の道の諦め、社会人として尊敬されるような人間に成長することが現在の目標です。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

親や保護者から独立し、自分で責任を持って生活したいです。そのためにも、経済的に自立したり大学でしっかりスキルを身につけたいと思います。また、健康面でも自分の体を大切に健康管理をしっかりしたいと思っています。



すえなが あみ
末永 愛海さん

将来の夢や目標は？

養護教諭になりたい！

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

優しく、頼られる養護教諭になります。



ますだ みんと
増田 海人さん

将来の夢や目標は？

仕事を覚えて会社に貢献したい。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

早かった。



いちやま しょうと
市山 丈翔さん

将来の夢や目標は？

職場に貢献できるようにがんばります。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

立派な大人になります。



つかもと りおん
塚元 璃桜さん

将来の夢や目標は？

親孝行していく。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

ママが大好き。これからはずーっと！



よこやま かふう
横山 華風さん

将来の夢や目標は？

昇進

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

20 までがとても早く感じました。



ふくやま けいか
福山 恵加さん

将来の夢や目標は？

獣医師

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

素敵な獣医師になります。



たなか ひろと
田中 大翔さん

将来の夢や目標は？

何かで有名になりたい。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

立派に育ててくれた両親に感謝の気持ち。これからも一生懸命生きていきます。



とどか るきあ
戸高 琉稀吾さん

将来の夢や目標は？

25 までに結婚する。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

人に迷惑をかけない。



いちやま りの
市山 璃乃さん

将来の夢や目標は？

土木・環境系の仕事に就きたい。

20 歳を迎えての気持ちや抱負は？

まだまだ実感がわかないけど、もう大人の仲間入りなので、どこに出ても恥ずかしくない人間になれるよう努力します。



座談会

Living on Iki Island



楽しい暮らしを当たり前。

とある冬の夜、郷ノ浦にある「D・D cafe」に集まった5人の共通点は縁あって杵岐に移り住んだことと「地域おこし協力隊」として活動したこと。杵岐での暮らし、まちづくりのこと、未来のこと、そしてこれからについて。この機会に、本音をとことん話っていました。

司会は市職員の別府が担当させていただきました！



長澤 みずきさん
移住定住促進
2022.7 ~

移住希望者のサポートや空き家の利活用を進めるために、空き家の掘り起こしや空き家バンク登録の運営サポートなどを行っている。



高田 望さん
メディアプランナー
2020.4 ~ 2023.3

在任中は写真撮影をはじめ、チラシ・ポスター・冊子などのデザインや情報発信を担当。現在は在宅で仕事をしながらのんびり杵岐ライフを楽しむ。



田口 有香さん
情報発信
2020.4 ~ 2023.3

在任中は杵岐市観光連盟に所属し、SNSでの情報発信やホームページの特集記事の取材などを担当した。現在は、農家の嫁兼ライターとして活動中。



藤木 彩乃さん
空き家活用促進
2019.5 ~ 2022.4

在任中は空き家の利用や移住定住促進を担当。現在はけしごむはんこ作家の傍ら、ライターやプロジェクトマネージャーとして幅広く活躍中。



大川 香菜さん
海女後継者
2013.5 ~ 2016.3

杵岐 25 年ぶりの海女の後継者として来島。現在は「ゲストハウスみなどや」「チリトリ自由食堂」を運営しながら仲間たちと地域活動を積極的に行う。



「地域おこし協力隊」の募集がありまして、ちょうどいいタイミングだなと思って決めました。

高田 私は 2019 年に初めて旅行で杵岐を訪れたんですが、着いた日に今でも理由はわからない

移住したきっかけ

大川 私の場合海女さんになりたくて、全国各地いろいろな情報を集めていたら、たまたま杵岐市で地域おこし協力隊の海女さん枠の募集を見つけて。杵岐に来たこともなかったし全然知らない土地だったんですけど、ピンポイントで私になりたい職業の募集だったので、もう移住する覚悟というか、飛び込みで面接に来ました。

藤木 私はゲストハウスのヘルパーをやりたくて、探してた時に見つけたのが（大川）香菜さんの宿だったんです。海女さんと漁師さんの宿に興味湧いて応募して、初めて来たのが 2017 年でした。20 日間くらいいたんですけど、元々自分が宮古島という島で育ったこともあって、雰囲気すごく似ている杵岐に住みたいと思って移住について調べていたら、ちょうど香菜さんの旦那さんから電話がかかってきて、「お前今何してるんか」と。「杵岐移住のこと調べてる」って言ったから、「いい仕事があるからちょっと待って」と。それが「地域おこし協力隊」だったんです。「え、やりたい！」って感じで、結構トントン拍子で決まりましたね。

田口 私の場合は、夫の出身が杵岐っていうご縁がありまして、結婚当初から家を継ぐのでいつかは帰るよって言われていて、もうそろそろかなってというタイミングで、こっちで自分も仕事を見つけれなかって思って探していたら

んですけど気に入ってしまって。旅行を終えて東京に戻った後も、撮った写真を見返しながら「また行きたいな」って考えているうちに「住みたいな」に変わって。パートナーに伝えたら、いろいろ調べた上で自然災害が少ないとか、今後自分たちの活動をする時に海外や他の都市にも出やすいとか、条件がすごくいいよねと。いつかは田舎でのんびりと制作活動したいなと思ってた時に協力隊のお仕事が決まり、2020 年の 3 月に移住をしました。

長澤 私、趣味で写真を撮るんですけど、特に朝日と夕日の写真が好きで。前職で長崎市に住んでいた時に県内の島を回りながら、島に住みたいなって思っていました。それで杵岐に初めて来て、今まで観光で行ってた島と違ってすごい安心したんですね。当時自分の家は長崎市にあったんですけど、長崎の家に帰る時よりも自分の家に帰ってきた感じがなぜかあって。

今思い返してみれば、いろんな人が「どっから来た？」とか声をかけてくれていたのもあると思うんですけど、でもやっぱりきっかけは、写真を撮るのに自分の好きな景色まで車で 15 分で行けて、仕事もすぐ隣でできてみたいな環境でした。その後すぐに「杵岐仕事」で調べながら「あの島に行くな、島のために何か貢献したいな」と思って「地域おこし協力隊」にたどり着きました。それで藤木さんの後任になったんです。

情報発信のあり方

別府 お話をお聞きしていて、いろんな移住のきっかけがある中で、やっぱり皆さん一番最初に杵岐を調べるところから入られていますよね。現在、情報発信という仕事に携わらせていただいている身としては、やはりいろんな方に届けられるような発信を心掛けていかなければと感じました。頑張ります！



大川 私、もう杵岐 11 年になりますけど、こちらに来ると決まって島のことを調べた時、あまり情報が出ていなかったんです。でも今はネット上で杵岐のいろいろな景勝地の写真が見れたりするじゃないですか。そこから考えると情報発信もすごく変わってきたなと思います。当時は市役所のホームページに景勝地の素朴な写真が載ってるぐらいで、正直すごい田舎で信号とかも無いのかなとか、そんな印象だったから。

別府 色々と変化する中でも、より良い方向に変わっていきけるように、市民皆様にご協力いただきながら発信していけたらと思います！

今後のまちづくりについて

高田 こっちに移住してよかったなっていうのは現在も変わらず思っていて、元々東京で生活していた時に感じていた窮屈さとか忙しなさというのがなくて、すごい

のんびりしていて良いなと思っています。

今は購入した古民家で、拾った猫2匹とパートナーと暮らしているんですけど、散歩しようと思って外に出たら海が近かったりとか、空が近かったりとか、静かな感じに毎日癒されています。

大川 東京で猫を保護しても家に連れて帰ったりとか簡単にはできないし、里親さん探すのも大変だと思うんです。そう考えると動物を飼うことも都会に比べたらハードルが低いというか、そういう大らかさが島にはあるのかなと思います。皆さんはどうですか？

藤木 そうですね……楽しい。

一同 爆笑

田口 子育てもしやすいですね！

一同 めっちゃしやすいです！

大川 公園とか近くになくても、5分くらい歩いたらすぐ海があって、保育園の終わった後とか、少し陽が落ちてから毎日のように海水浴に連れて行って、砂遊びして、なんかそういう自然遊びが身近にできるのが良いなって。自然の遊び場が多くて、お金かけずに思いっきり遊べるし、絶景の景色が身近にある。すごく贅沢な暮らしだなって思います。

田口 都会に住んでたら海行くのも高速道路乗って連れて行って遊ばないといけないけど、島だとほんの15分くらいだけとか、足浸



かるためだけとかで海に寄って行ったりできるから、そういうのすごくいいなっています。

藤木 子どもたちの変化とかありましたか？

田口 週末の過ごし方が変わりましたね。大阪にいる時はずっと予定が詰まってるって感じだったけど、こっちきたら本当にのんびり、その時遊びたい遊びをするみたいな感じで。特に何にもない日でも、うちは牛舎があるからちょっと牛に触ってみたりとか、田んぼ行ってみたりとか。なにげなくできる。向こうにいる時は、わざわざ稲刈り体験とかに予約して行ったりしてましたけど、お金かけずにいろんな体験をさせてあげられるっていう、そういうことが全然違いますね。

大川 あとやっぱり、すれ違う人同士、挨拶をするのが島って当たり前じゃないですか。

うちの6歳の娘もそれが当たり前だと思っているから、この間東京出張と一緒に連れて行った時に、電車で隣の人とか公園で遊ん

でいる子どもたちにも声かけちゃうんですね(笑)。でも、やっぱり挨拶返してくれない子とかもいてすごく衝撃を受けていて。壱岐に帰ってきて、すれ違った高校生のお兄ちゃんに挨拶して、返事があったのすごく喜んで、「やっぱ壱岐が最高」って。

藤木 私自身に子どもはいないけど、町の子どもの成長がすごくよくわかるかな。1年生だった子がもう6年生で、もうすぐ中学校かあとか。大きくなったなあ次は小学生かあ感慨深いなあとかすごく感じるのも、人と人が近いからなのかな。

逆に、あと数年で島を出て行くっていう寂しさもありますね。今一緒にいる時間はやっぱり大事にしないといけないと思います。時間の大切さとかも、島だから思うのかもしれない。

大川 ただ、壱岐って離島だけけどそんなにハードルの高い島ではないじゃないですか。すごく生活しやすいと思うんですよ。お店で生活用品も揃うし、福岡にも高速船で1時間で行けて、空港があって。帰省もしやすいし、ちょっと足を延ばせばそういう離島の暮らしとは反対の文化も知れるのがいい。ちょうどいい距離にある島だと思っています。

長澤 一番良いなと思うのは、顔が見えるところ。普段行くお店の人とか顔がどんどん見えてきて、お名前を覚えて、そのうち何々さんから買うとか、何々さんに頼むっていう風になっていくのが都会ではあまりなかったから、良いなっていますね。顔が見える世界、島。

壱岐市の未来について

長澤 暮らしを楽しんでいる姿を見るとすごくいいなっていると思うの

で、今まで守ってきた文化とか継承してきた習慣・伝統などの大事なものは残して、私のような島外から来た人たちとも共有して、新しいものと伝統的なものどちらも大事にできるような未来があったらいいなっています。

藤木 私は移住者の身であるけれど、この島が好きで住んでいるので、例えば将来なくなっていくかもしれない祭や伝統行事などを記録したり冊子にして後世に残していくとか、島外で見た面白い取組を持ち帰って、新しい視点や発想から今住んでいる町の新しい何かが始まればいいなと思っています、2024年度からいろんな人たちを巻き込んで、みんなが主になって自分の町を考えられるような取組を考えています。



長澤 素敵！

大川 一緒にやりましょ！

藤木 ご協力お願いします！

大川 みんなが協力しあって、生業がちゃんとできて、したい暮らしができるっていうのが一番だと思います。お仕事を継続していくことはすごく大変だと思うんですけど、離島で暮らしても生業がちゃんと成り立って、協力しあってできたらね。小さな島にも可能性があるんだってわかったら、たとえ一回島外に出ていっても、また戻ってきて何かしようと思えるはずなので。そういう可能性を示

すことがここで暮らしてる大人たちができることなのかなと思うので、自分の暮らしが全部それに繋がってると思っています。

あと、自然豊かな島だから、島の自然環境を大切に考えたまちづくりが行われるといいなっているのは本当に切に思います。壱岐の素敵な景色や自然環境を早急を守っていく必要があると思います。

今後やりたいこと

藤木 空き家活用担当だった私とその後任の長澤さんで、ずっと何かしたいなと思ってたんですが、2024年の1月から毎月、月に1回4町を回る移動式のカフェ&スナックをすることになりました。その名も「もものかんづめ」(笑)。今の所、石田、勝本、芦辺、郷ノ浦の順で回る予定ですので、よかったら足をお運びください。

長澤 市内を回って、ゆくゆくは市外に出て、壱岐の美味しい焼酎をPRしに行けたら面白いと話もして。自然もそうですけど、壱岐のいいもの、美味しいものをリアルな1人の声として発信していくことって、すごく大事なことだと思うんです。外からきたからこそ分かる良さ、住んでからこそ分かる良さ、そういうのをまだ来たことない人たちに発信していきたいですね。

大川 楽しい企画だね。やってみる人も来る人も楽しいのが一番だからね。

高田 私はパートナーと2人で「ついで design & photo」というクリエイティブユニットを掲げて動いているんですけど、色々な場所でワークショップをやって、絵を描くのが好きな人だったりお子さんとかがすごく楽しんでくれるんですね。その姿を今後も見たいからいいなと思っています。



あと、パートナーが元々デザインとかゲームの会社で仕事をしてたことがあるんですが、そういった職種に興味のある方やお子さんに対しての情報源が島には少ないなと感じたので、そういう方々にこういう道もあるよとかこんな学校に通えるよとか、自分が知っている情報を共有してクリエイティブの道を少しでも手助けできたら。あとは日々平和に焼酎を飲んで暮らしていきたいです(笑)。

一同 いいねえ。

長澤 それがいいんじゃないですか!? 日々どんどん時間が過ぎていく中で、その一瞬一瞬をどれだけ楽しい時間として重ねられるかっていうのは、都会に住んでた時あんまりなかった気がするんですよ。島に来てからは1日1日が楽しいで埋め尽くされるみたいになって、これを続けていけるように暮らしを楽しんでいきたいなっています。

高田 いろいろ課題はあると思うんですけど、いいなと思ったこの壱岐の環境が、当たり前に行くことを願っています。

田口 私も、子どもたちとか壱岐に興味を持ってくれる人たちに、田口有香という生き方を見てもらえるように、可能性を広げられるように、ちゃんと稼いで楽しく暮らすというのを体現していけたらと思います。

一同 カッコいい！

別府 本日は尊敬する大先輩の皆様とお話ができて楽しかったです。大変勉強になりました。ありがとうございました！

一同 お疲れ様でした！

いっきよい! PEOPLE



いっきよい!
PEOPLE
その1

子どもも大人も旅人も。
ボーダーレスな交流拠点へ

たちまち ~志岐島芦辺浦計画~

月曜と金曜の週2日、子どもたちの放課後時間に合わせて開放している『たちまち』。

中には、おもちゃや絵本などが置いてあります。

「ここで遊んでも、宿題をしても、まちに遊びに行ってもいいんです。おじいちゃんが孫を探しに来ることもあります。とにかく自由に使ってもらってます。」そう話すのは芦辺浦でビザ屋を営む平山さん。現在、平山さん夫妻、大川さん夫妻、篠崎さん夫妻で『たちまち』は運営されています。

以前は、港町として賑わっていた芦辺浦。時代とともに人が減り、商店も数えるほどになりました。しかし、ゲストハウスや食堂ができた近年、少しずつ芦辺浦を訪れる人、移住を希望する人が増え、課題であった空き家問題の解決にも繋がっています。

今後については、「様々な国の人や、考え方・価値観の人が住んでくれるボーダーレスな芦辺浦になるといいなと思います。」と平山さんは話してくれました。



いっきよい!
PEOPLE
その2

400年続く伝統を継承
未来へ向かって力強く權を漕ぐ
御幸船保存会

毎年10月14日に勝本浦で行われる御幸船（船競漕）。紅白2艘の和船が競漕し、赤い船が勝てば大漁、白い船が勝てば豊作、と1年を占う神事です。歴史は古く400年近い伝統があり、国選択文化財に指定されています。

「御幸船保存会」は、この伝統の継承を目的として平成7年に設立。現在は、20代から50代まで15人で活動しています。参加しているのは漁師だけではなく、普通の会社員

や公務員など様々。「本番は毎年10月14日、休日とは限りません。それぞれが仕事と厳しい練習を両立しながら本番に臨みます。」と話すのは保存会の吉田さん。

現在の課題は「後継者」。新人育成には2~3年はかかるそう。また、木製の和船を作る技術の継承も重要です。「伝統を守るためにも是非皆さんに知っていただき、応援していただくと嬉しいです。」と吉田さんは話しました。



いっきよい!
PEOPLE
その3

志岐の伝統工芸「鬼凧」を守り伝える
Uターン女性職人

鬼凧工房 平尾

斉藤 あゆみ さん

志岐の伝統工芸である鬼凧。家や商店、果てはマンホールにと、島を代表するモチーフのひとつです。しかし、現在鬼凧を作る工房はたった1軒しかありません。

「まさか凧づくりを継ごうなんて考えてもいませんでした。」

そう語るの、現在島で唯一の鬼凧工房にて鬼凧を作っている斉藤さ

ん。5年前に祖父である先代が体調を崩した際、「この伝統を残さねば。」と福岡からUターンして戻ってきました。

修業の成果もあり、現在ではお土産用や贈答用など、大小様々な鬼凧を祖母の平尾フクヨさんと一緒に製作しています。

「最初の頃は、一応形としてはできるんですが、完成したあとに祖父



のようにできないな……と悩むこともありました。やっぱり絵の力強さなんかはなかなか真似できませんでしたね。ここ最近になってようやく思うようなものが作れるようになってきました。」と斉藤さん。

今後の目標について聞くと、「志岐以外にもこんな工芸品があるんだよ。ともっと発信して行って、若い人にも鬼凧の魅力を知ってもらいたいんです。私もこの伝統をなくさないように頑張ります。」と力強い決意を語ってくれました。

いっきよい!
PEOPLE
その4

『儲かる農業の実践』が
雇用と働きがいを創出

株式会社 solare 代表取締役

日高 将希 さん

志岐の農産品といえば何を思い浮かべますか。志岐牛、いちご、アスパラガスなど、様々な農産品がありますが、実は花き栽培も盛んな“花の島”なのです。

花き農家である日高さんは、令和2年に株式会社 solare を設立し、それまでの家族経営から会社経営へ移行しました。会社に所属しているのは日高さんご両親、従業員4人の計7人。栽培面積24,000㎡の畑では主に小菊、ランタンキュラス、ストックなどの品種を1年通して継続出荷できる体制が敷かれています。

「今後の目標は、規模拡大を進めていきたいと考えています。“儲かる農業の実践”をして、島内の雇用を創出していくことで、若い人にも農業への関心を持ってもらえるといいなと思っています。」と話す日高さん。

「今後も安定した販売額と所得向上のために栽培品目、品種の選定や技術の習得を行って、雇用者への安定した給与を確保し、働きがいのある職場環境を実現していきたいです。」と日高さんは満開の未来を見据えているようです。





いっきょい!
PEOPLE
その5

500年の伝統を守る壱岐焼酎 壱岐酒造協同組合

壱岐の名産のひとつ、壱岐焼酎。現在、市内には7つの酒蔵があり、壱岐焼酎を製造しています。「壱岐には焼酎造りの技術が人と共に朝鮮半島から伝わりました。その歴史は500年ほどと言われています。造るのも大変な厳しい時代を乗り越えて今まで続いてきているということは、私たちにとってもすごく嬉しいこと。そしてこの先、どうやって広げていくかということが現在の課題です。」そう教えてくれた

のは壱岐酒造協同組合の山内理事長。「WTO（世界貿易機関）は平成7年地理的表示を制定し、壱岐焼酎を産地に指定しました。壱岐焼酎が世界に認められたわけです。壱岐の麦焼酎は3分の1の米麴と3分の2の麦を使用することにより、香ばしい麦の香りの中に、米の甘さがあるのが特徴なので、ぜひ飲まれる時は、その甘味も感じていただければ。また、原料は麦と米なので、私たちの主食と同じです。だからどんな食事



にも合う食中酒として楽しんでいただけたと思います。」と山内理事長は話します。

最後に今後について尋ねました。「壱岐島外に出ると、壱岐焼酎の知名度は高いとは言えません。逆に言うと、まだ伸びしろがあると捉えています。時代に合わせて皆さんが手に取ってもらえるように、PRしていきたいと思います。また、やはりここまで続けてこれたのも壱岐の皆さんのおかげ。これからも皆さんにご愛飲いただき、我々も切磋琢磨していきたいと思います。」

壱岐焼酎の中に溶け込む500年の歴史と酒蔵の皆さんの努力。じっくり味わいながら楽しいひとときを過ごしたいものです。

いっきょい!
PEOPLE
その6

企業誘致による雇用創出で『働くことができる壱岐』へ 株式会社マツオ 代表取締役 松尾 直幸さん



株式会社マツオは福岡県に本社があり、主に半導体などのハイテク機器の製造装置や医療機械などの部品加工を行っている会社です。平成20年に企業誘致により、壱岐に新工場を設立されました。

「当社のモノづくりには板金・切削・ハーネスという3部門があります。壱岐工場ではハーネスのみを専業で製作しています。」こう話すのは代表取締役の松尾さん。

「お客様に喜ばれる仕事を通じて、社員の成長に全力を尽くし、壱岐市の発展と繁栄に貢献し、壱岐市に奉

仕する経営を行っています。朝、起きて仕事のできることに感謝し、家族・同僚の絆を大切にし、同じ時代に生きる縁の不思議さと喜びを共有して、多くのお客様や関係する方々が応援してくださる会社になります。現在、この工場では社員1名、パート従業員16名の計17名が働いています。令和5年度は、壱岐商業高校へ新卒求人も出しています。社員もパート従業員も増員し、事業拡大したいと考えています。」と松尾さんは話します。

「壱岐工場ができて16年になりますが、まだまだ多くの人にマツオのことを知ってほしいと思いますし、多くの方々に応援される企業でありたいと思います。」

企業誘致によって繋がれたご縁。これからも多くのご縁が繋がれることを期待せずにはられません。



神 奈川県厚木市出身の霜島さん。釣りが好きだったため、「好きなことを仕事にしたい。」と一念発起して壱岐に移住、念願だった漁師になりました。

「漁師の仕事を始めて8年目になります。船なしの下積みも3年、独立して5年ぐらいです。でも魚ばかり追いかけていて節目もないし、もう何年ってという感覚がないんですけどね。」と霜島さんは笑います。

「愛媛県出身の妻は壱岐にまでふらっと付いて来てくれるタンポポみたいな人です。壱岐での生活にも慣れ、第1子も誕生しました。家族の理解と協力があり、日々漁業に励



いっきょい!
PEOPLE
その7

壱岐で実現させた『好きなことを仕事にする』

壱岐東部漁協 漁師
霜島 幸太さん

むことができます。」と話す霜島さん。漁業の未来をどう感じているのでしょうか。

「今でも、目をキラキラさせながら漁をする先輩漁師の姿をみてかっこいい一つて思います。ただ、漁師は『汚い、きつい、危険』のイメー

ジが根強くあるため、やっぱり若い世代が少ないのが現状です。」と危機感を持っているよう。漁業の魅力を発信し続けることで、これからの漁業を担っていこうと考える霜島さんのような若者が増えることに繋がるのかもしれない。

「アンマーズ」は、壱岐で活動するダンスチームで、レッスンや発表会などを行っています。

「コロナ禍に『壱岐島エンタメ学校』というオンラインの学校が始まりました。この子たちは、そこに参加してくれている30人のメンバーの中で、実際にテレビに出て様々なエンターテインメントに挑戦していくチームです。海でマリンスポーツを体験してみたり、商店街の洋服店をお借りして1万円コーデ企画をやってみたりと、島でしかできないことに子どもたちと挑戦しています。」そう話すのは代表の坂口さん。

そんな坂口さんには目指すものがあるようです。



いっきょい!
PEOPLE
その8

子どもたちとつくる「島エンタメ」 目指すは「ダンスアイランド」

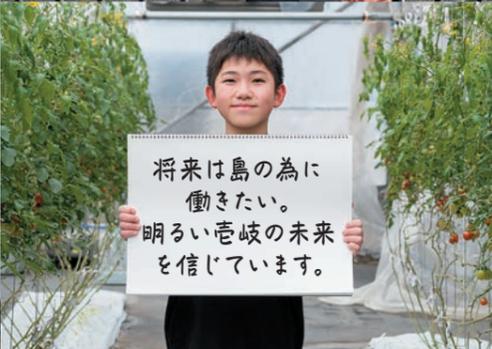
AMMERS DANCE STUDIO
壱岐島エンタメ学校

「壱岐の島をダンスアイランドにしたいんです。そのために、年に1度発表会を『IKI DANCE ISLAND』という名目で、赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで一緒に踊れるような空間を作ってます。

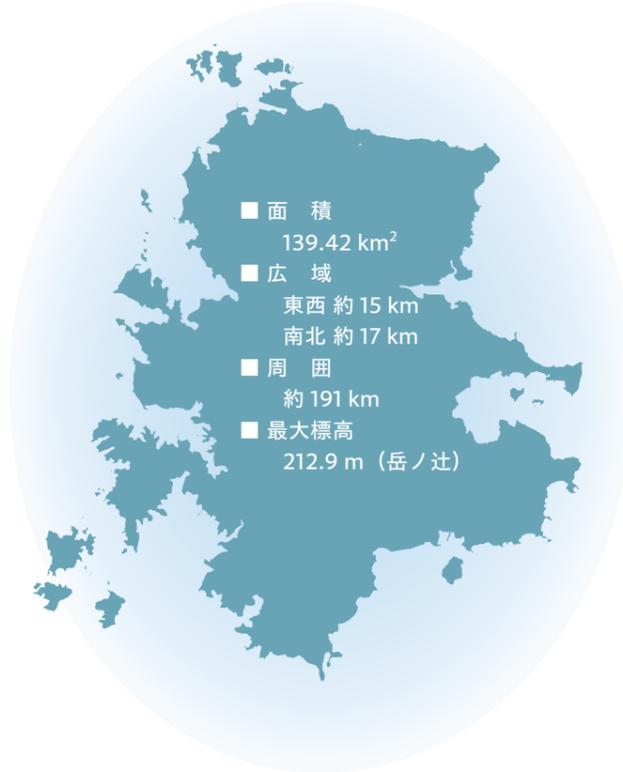
ダンスを通して老若男女が楽しめる島になったらいいと思います。」

みんなでつくる島発信のエンターテインメント。これからも壱岐島エンタメ学校から目が離せません。





吉崎市の地形 (令和5年10月1日現在)



幼稚園・保育所・こども園等と園児数 (令和5年10月1日現在)

● 学校数と児童数

種別	園数	定員の合計(人)	通所児童数(人)
幼稚園	8 (うち市立8園)	680 (うち市立680人)	159 (うち市立159人)
保育所	5 (うち市立4園)	410 (うち市立360人)	368 (うち市立310人)
こども園	1 (うち市立1園)	200 (うち市立200人)	150 (うち市立150人)
小規模保育施設	4 (うち市立0園)	76 (うち市立0人)	82 (うち市立0人)
へき地保育所	6 (うち市立6園)	230 (うち市立230人)	39 (うち市立39人)

小・中学校数と児童・生徒数 (令和5年10月1日現在)

● 学校数

幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
8	18	4	2	1

※虹の原特別支援学校専科分教室が盈科小内(小・中学部)と巻枝高校内(高等部)にあります。

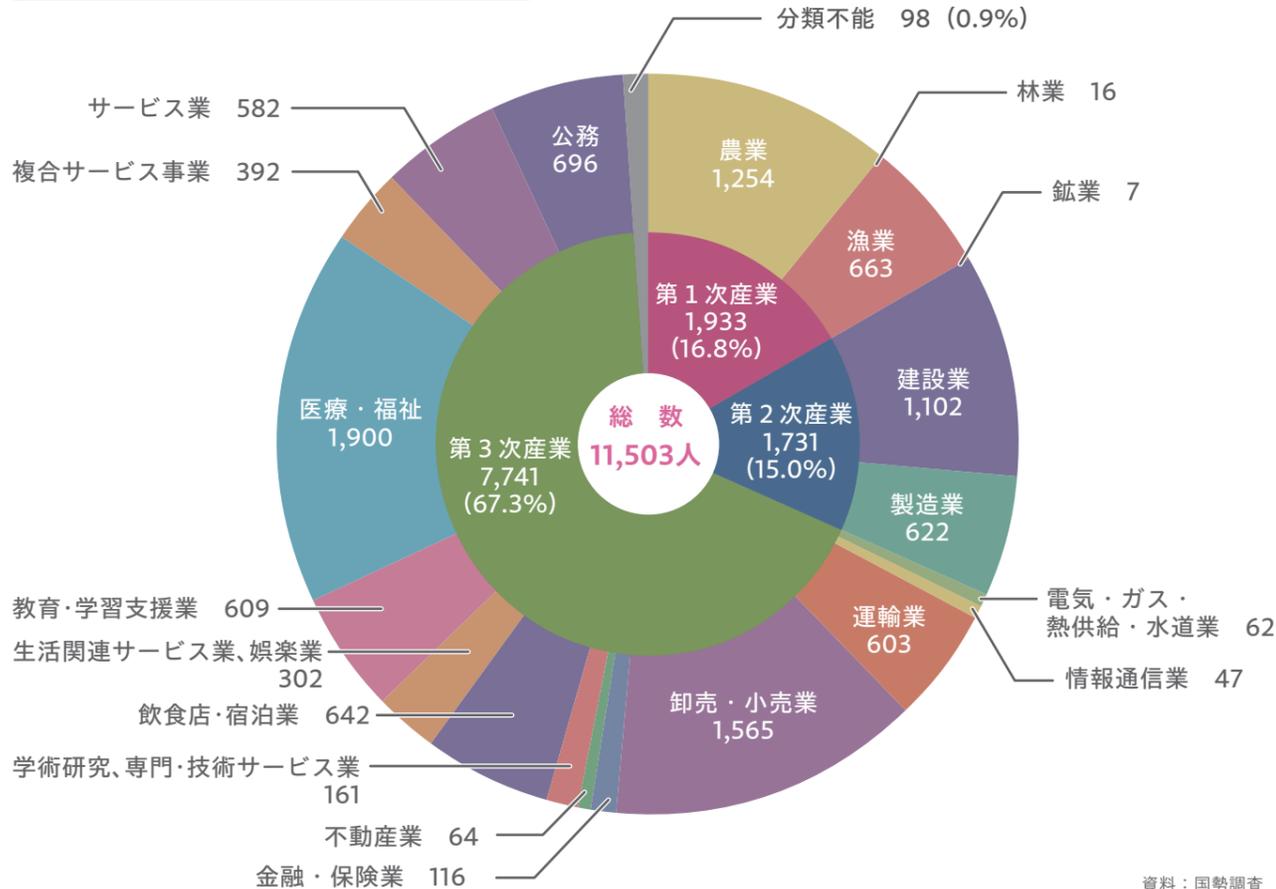
● 小学校児童数 (単位:人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
201	203	206	221	227	231	1,289

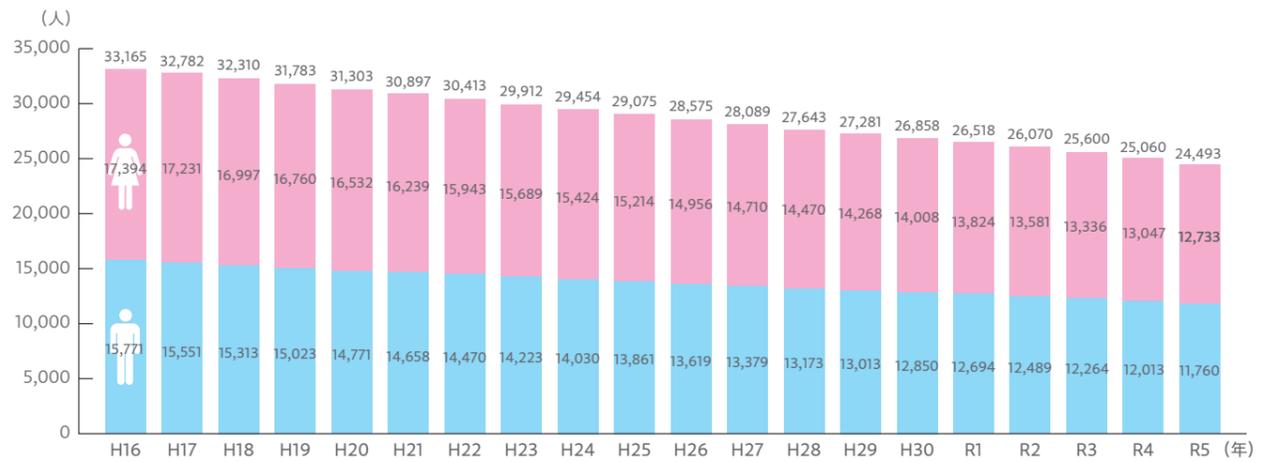
● 中学校生徒数 (単位:人)

1年	2年	3年	合計
226	224	239	689

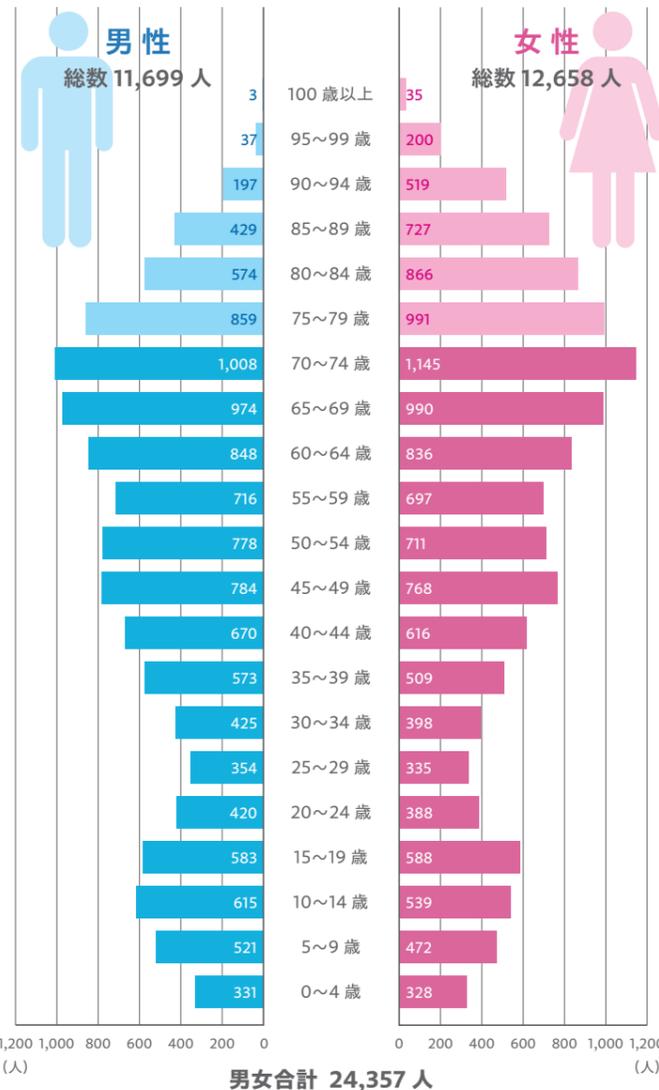
産業別就業者人口 (令和2年10月1日現在)



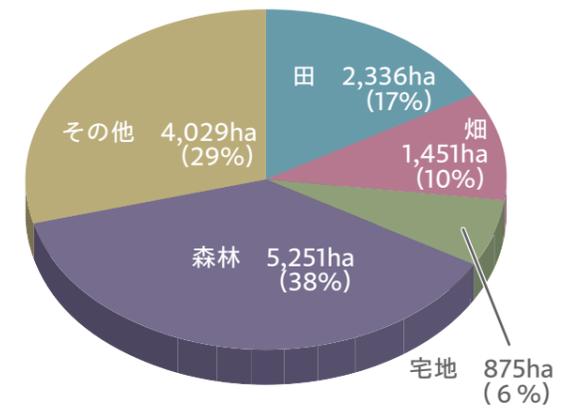
人口の推移 (各年10月1日現在)



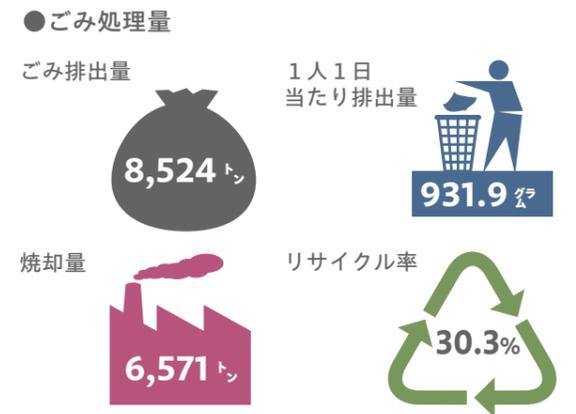
年齢別人口 (令和5年12月31日現在)



地目別土地利用面積 (令和6年1月1日現在)



ごみ処理量・回収量 (令和4年度実績)



● 資源回収量 (単位:トン)

空缶類	空ビン類	ペット類	トレイ類	古紙類	布類
72	161	93	47	1,244	8

歴代市長



初代市長
長田 徹
〈任期〉

平成16年4月18日～平成20年4月17日

※壱岐市長職務執行者 山口 銀矢（平成16年3月1日～平成16年4月16日）



第2代市長
白川 博一
〈任期〉

平成20年4月18日～現任中

歴代助役・副市長

歴 順	氏 名	任 期
初 代	澤木 満義	平成16年5月19日～平成20年4月17日
第2代	久田 賢一	平成20年4月30日～平成24年4月29日
第3代	中原 康壽	平成24年5月15日～平成30年10月31日
	山下 三郎	平成24年7月18日～平成26年3月31日
	笹原 直記	平成27年9月1日～平成29年6月30日
第4代	眞鍋 陽晃	平成30年12月18日～現任中



第4代副市長
眞鍋 陽晃

※地方自治法の改正により、平成19年4月1日付で「助役」を「副市長」に改称
※平成24年5月1日から、副市長2名体制

歴代教育長

歴 順	氏 名	任 期
初 代	須藤 正人	平成16年5月20日～平成24年5月19日
第2代	久保田 良和	平成24年5月20日～令和5年5月19日
第3代	山口 千樹	令和5年5月20日～現任中

※教育長職務代理者 高田 國行（平成16年3月1日～平成16年5月19日）



第3代教育長
山口 千樹

歴代収入役

歴 順	氏 名	任 期
初 代	布川 昌敏	平成16年5月19日～平成20年4月17日

※地方自治法の改正により、平成20年4月18日付で収入役の役職を廃止

歴代議長



初代議長
瀬戸口 和幸
平成16年3月8日～平成17年7月17日



第2代議長
深見 忠生
平成17年8月17日～平成21年8月6日



第3代議長
牧永 護
平成21年8月12日～平成23年8月12日



第4代議長
市山 繁
平成23年8月12日～平成25年8月6日



第5代議長
町田 正一
平成25年8月8日～平成27年8月11日



第6代議長
鵜瀬 和博
平成27年8月11日～平成29年8月6日



第7代議長
小金丸 益明
平成29年8月10日～令和元年8月9日



第8代・第9代議長
豊坂 敏文
令和元年8月9日～令和3年8月6日、令和3年8月12日～令和5年8月10日



第10代議長
小金丸 益明
令和5年8月10日～現任中

歴代副議長

歴 順	氏 名	任 期	歴 順	氏 名	任 期
初 代	深見 忠生	平成16年3月8日～平成17年7月17日	第7代	深見 義輝	平成27年8月11日～平成28年10月21日
第2代	小園 寛昭	平成17年8月17日～平成20年6月23日	第8代	今西 菊乃	平成28年11月2日～平成29年8月6日
第3代	倉元 強弘	平成20年7月4日～平成21年8月6日	第9代	豊坂 敏文	平成29年8月10日～令和元年8月9日
第4代	小金丸 益明	平成21年8月12日～平成23年8月12日	第10代	赤木 貴尚	令和元年8月9日～令和3年8月6日
第5代	中田 恭一	平成23年8月12日～平成25年8月6日	第11代	土谷 勇二	令和3年8月12日～令和5年8月10日
第6代	鵜瀬 和博	平成25年8月8日～平成27年8月11日	第12代	赤木 貴尚	令和5年8月10日～現任中

議員定数の推移

平成16年	3月1日	壱岐島内の4町合併により、「壱岐市」が誕生（議員数62名） ※旧町議会議員62名（旧郷ノ浦町18名、旧勝本町16名、旧芦辺町16名、旧石田町12名）
平成17年	3月25日	議会自主解散決議案を否決（第1回定例会最終日）
	6月23日	議会自主解散決議案を否決（第2回定例会最終日）
	7月17日	壱岐市議会の解散請求の賛否を問う住民投票執行、即日議会解散
	8月7日	解散に伴う市議会議員一般選挙執行（議員定数26名）
平成20年	6月6日	壱岐市議会議員定数条例を議決（議員定数20名）
平成25年	7月21日	任期満了に伴う市議会議員一般選挙執行（議員定数16名）



壱岐市 市章

壱岐市の「i」をモチーフに躍動する曲線で
壱岐の更なる飛躍する姿を力強く表現しました。
漢字の「人」で波を表現し、壱岐に来る多くの人々の出会いと交流をイメージ、
赤は活力と未来へ輝く太陽、緑は自然に恵まれた豊かな暮らしを意味します。



市の花木「やぶ椿」

市内全域にわたり自生する常緑高木で、「カテシノキ」として、市民に親しまれています。また、種子からはつばき油も採れ、私たちの生活にも関わりのある花木です。



市の花「水仙」

市内のいたる所に群生し、親しみがあり、清楚で気品があります。多年草の花で、耐寒性があり育てやすく、厳冬の中に花を見ると春の訪れを感じることのできる花です。



市の木「まき」

市内に自生する常緑高木で、強風・塩害・病害虫に強く、庭木・生け垣・用材として広く利用されており、生活になじみの深い木です。



市の鳥「めじろ」

市内に広く生息し親しみがあり、可愛くさえずります。目をふちどる白い輪が特徴です。身近に見られ、美しく、愛らしい鳥です。

ゆらめく壱岐の
海光る
ゆらめく壱岐の
海光る
輝く未来を
見つけよう
永い歴史を
受け伝え
島に弥生の
風薫る
玄界灘の
波うけて

きらめく壱岐の
島萌ゆる
きらめく壱岐の
島萌ゆる
心ひとつに
ときめいて
新たな息吹
生み出そう

海とみどりに
育まれ
ゆたかな恵み
わかち合おう
はばたく壱岐の
空映ゆる
はばたく壱岐の
空映ゆる
明るい希望
奏せよう

花咲き海の
碧が増す
いとなみ刻む
手をつなぎ
春一番に
さそわれて

作詞 藤本 健人
作曲 小椋 佳
編曲 川辺 真

壱岐市誕生1周年記念
壱岐市 市歌
壱岐洋洋

壱岐市市制施行20周年記念誌

もっとずっと壱岐

Moving forward to the future with you.

2024年3月 発行

発行 / 壱岐市

編集 / 壱岐市総務課

〒811-5192 長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触 562 番地
TEL.0920-48-1111 FAX.0920-48-1553

印刷・製本 / 有限会社正文社印刷所



Moving forward to the future with you.
IKI City 20th Anniversary